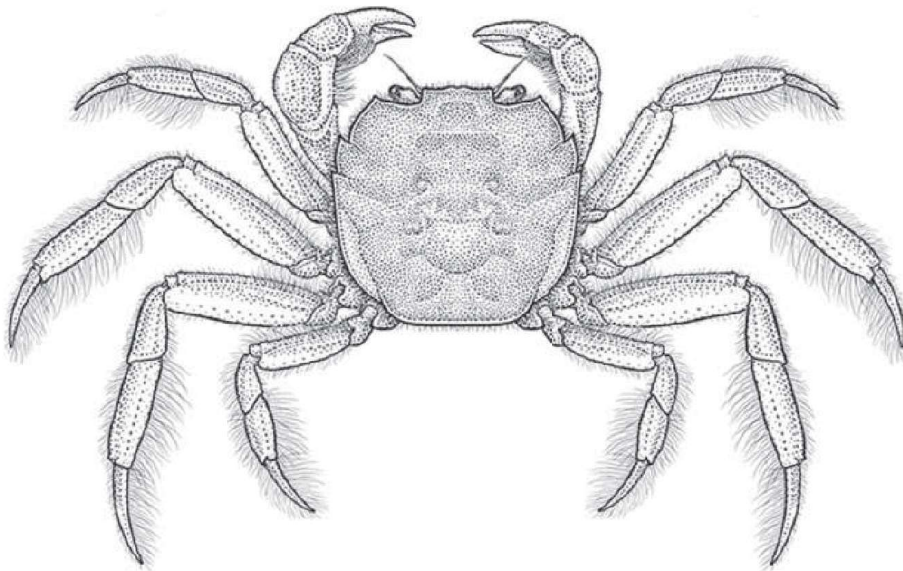


甲殻類等



絶滅危惧IA類 (CR)

ヒメモクスガニ

Neeriocheir leptognathus

甲殻類等概論

● 魚類・甲殻類等分科会／小山彰彦・中島 淳・齋藤 稔

■ 概要

「甲殻類等」のレッドデータブックの作成にあたり、まず、福岡県内に生息する、あるいは生息の可能性がある水生の甲殻類および無脊椎動物（昆虫類、貝類、クモ形類などを除く）のリスト（1次リスト）を作成した。2014年以降の行政・地方自治体が実施した生物調査のデータ、筆者らが独自に集積した調査データおよび文献などのデータを整理した結果、甲殻類が250種、その他無脊椎動物が208種リストされた。さらに、県内に生息する可能性がある希少種の見逃しを減らすため、福岡県および近隣県のレッドリスト・レッドデータブック（福岡県、2001、2014；佐賀県、2004；長崎県、2011、2022；大分県、2011、2022；熊本県、2019；山口県、2019）に掲載されている希少種を整理した。結果として、福岡県および近隣県では128種の希少種が抽出され、このうち38種が上述したリストに含まれていなかった。よって、これらをまとめると計496種が1次リストに挙げられた。ただし、これらすべての種について標本を確認できたわけではないため、誤同定が含まれている可能性がある。加えて、多くの調査は河川や沿岸の浅海域であり、海域の生物種の多くは本リストから抜け落ちている点も留意しなければならない。

1次リストに含まれる496種には、評価対象外の種（例えば、外来種や継続観察例がない種）についてもリストされている。ここから国外外来種10種を含む評価対象外の種を除外したうえで、生息状況の変化、および絶滅の危険性について評価を行なった。特に、福岡県および近隣県における128種の希少種を重点的に評価した。それ以外の種についても、後述する「選定基準」に沿って、調査結果をもとに、生息地の消失や個体数が減少した可能性がある場合は、適宜評価を行った。

2001年度版の福岡県レッドデータブックでは、絶滅危惧が6種、準絶滅危惧が14種、情報不足が2種、絶滅のおそれのある地域個体群が1種、計23種が掲載された。続く2014年版の福岡県レッドデータブックでは、絶滅危惧IA類が5種、絶滅危惧IB類が7種、絶滅危惧II類が5種、準絶滅危惧が18種、情報不足が10種、計45種が掲載された。今回（2024年版）の福岡県レッドデータブックでは、絶滅危惧IA類が5種、絶滅危惧IB類が8種、絶滅危惧II類が11種、準絶滅危惧が26種、情報不足が23種、計73種が掲載された。2014年版と比べて、29種が新規で掲載された。

掲載種が増加した理由としては、今まで評価できていなかった種の情報が蓄積されたことが挙げられる。これは特に、県内外の調査研究や環境アセスメントによって様々な生物の分布情報が蓄積されことに由来する。2014年版と同様に、今回の掲載種の多くは沿岸域、特に河川感潮域に形成される干潟や塩性湿地などを生息場（ハビタット）とする。このような潮間帯のハビタットは、河川開発や海岸開発に伴う河道掘削、浚渫およびコンクリート護岸化などによって劣化・消失が著しく、依然として回復の兆しはみられない。そのため、カテゴリーのランクが下がった種はいずれも新産地が発見されただけであり、環境改善に起因するものではないことを強調しておきたい。

先述したとおり、生物の分布情報は着実に蓄積されているが、新規で掲載された種の多くは情

報不足の категорияとして判断された。つまり、依然として生息状況が詳細に評価できていない種が多く存在する。例えば、県外では希少種であるが、福岡県では1例しか確認できていない種（シナガワウロコムシ、サナダユムシ、ユメユムシ、サヌキメボソシヤコ、ユメユムシテッポウエビおよびフタハピンノなど）は今回評価を見送った。また、海域に生息する種については情報が限られており、多くの種の評価を見送った。例えば、県内の海草藻場や海藻藻場は気候変動やウニによる食害などによる衰退が示唆されており、本環境を生息場とする種も同様に減少している可能性があるものの、具体的な評価はできていない。結果として、県内における潜在的な希少種は現在の掲載種よりも多いと考えられるため、県内におけるさらなる調査が望まれる。

掲載種の和名や学名など分類学的な表記については、前述した福岡県および近隣県のレッドリスト・レッドデータブックおよび環境省がとりまとめるレッドリスト（環境省，2017，2020），日本ベントス学会（編）（2012），WoRMS（2023）を主に参照し、適宜、新規で出版された学術論文なども参照した。なお、本分科会で扱ったグループのうち、従来、星口動物門、ユムシ動物門、環形動物門として独立に扱われていた分類群については、近年の分子系統学的な研究から一つの大きなグループとして整理できることが明らかとなった。また、環形動物門の各綱（多毛綱、貧毛綱、ヒル綱）の系統関係も従来の分類体系と一致しないことが明らかになった。そのため、目以上の分類階級については、現在その多くが決定していない状況にある（小林，2021）。したがって、本来であれば目の階級は空白扱いとするのが妥当であるが、レッドデータブックが一般向けの普及啓発も目的としたものであることから、ここでは便宜的に「類」として、従来の分類階級をイメージできる枠組みを「目」の欄に表記して整理した。あわせて目の階級が提唱されていない腸鳃綱（ギボシムシ）についても同様に表記した。そのほか、和名が提唱されていない科名については学名で表記した。

■ 選定基準

「甲殻類等」における対象種の多くは定量的データがない場合が多く、また、行政などのデータベースも乏しい状況である。よって、多くの場合、定性的な判断に基づき各種の category を決定した。前回の福岡県レッドデータブックの出版が2014年であったことから、2013年以前の生物情報を過去、2014年以降の生物情報を現在と位置づけた。文献調査、聞き取り調査、分科会委員と調査協力者による現地踏査によって情報を収集し、過去と現在の分布情報から、各種の生息状況の変化を定性的に評価し、分科会会議での検討を踏まえながら category を決定した。また、漁獲統計資料（福岡県，2019，2023）が整理されている水産有用種については、その増減に基づいて評価を行った。

カブトガニなど市民科学者による長期的なモニタリングデータが蓄積されている種については、個体数による定量的な評価を試みた。しかしながら、モニタリングの範囲は限られており、これらの結果を県内全域の傾向として当てはめるのは不適切であると考えられたため、定性的な情報も踏まえて総合的に判断した。

■ ハビタット

「甲殻類等」における希少種を保全するうえで、ハビタットの理解が重要である。なぜならば、「甲殻類等」に属する多くの種は移動能力が低く、ハビタットの劣化、消失および断片化に強く影響を受けるからである。結果として、掲載種の多くが上述したハビタットの劣化、消失および

断片化によって絶滅の危機に瀕している。

ハビタットの劣化とは、ハビタットを構成する環境要因の一つ以上が種の生息にとって不適になってしまうことである。水生生物の場合、水質汚濁などがこれに該当する。この場合、水質汚濁を改善すれば、減少した希少種の個体数の回復が期待できる。ハビタットの消失とは、文字通りハビタットそのものが失われてしまうことである。例えば、道路の拡幅などに伴い、河岸沿いの塩性湿地が完全に埋立てられるようなケースが該当する。塩性湿地に依存する生物にとっては、生息条件が完全に失われてしまうため、個体数は減少する。このようなハビタットの消失の場合、近傍の水質汚濁を改善しても減少した生物の個体数の増加は期待できない。少なくとも、ほかの場所に消失したハビタットを創出する必要がある。そして、ハビタットの劣化や消失は、ハビタットの断片化を引き起こす可能性がある。例えば、河川に堰が設置された場合、移動能力の低い生物は堰の上下流で交流ができず、それぞれの生息地が断片化されてしまう。このような断片化はより大きなスケールでも生じる。例えば、カブトガニは福岡県玄界灘の沿岸にかつて広く生息していたことが分かっているが、現在の生息地は断片化してしまっている。ハビタット間の距離が大きくなるほど、繁殖個体の交流が難しくなる。さらに、浮遊幼生期を有する種においては、ハビタット間の距離が大きくなるほど浮遊幼生が定着できない危険性が高まる。

以下に、「甲殻類等」における福岡県内の保全上重要なハビタットとして(1)干潟、(2)塩性湿地、(3)河川感潮域、(4)淡水域の概要と各ハビタットの代表的な地域を示す。これらのハビタットは多種多様な希少種が生息する、あるいは特定の希少種の個体数が多い。ただし、既に部分的な環境改変が生じており、これらのハビタットが必ずしも健全とは限らないことを留意いただきたい。可能であれば環境の保全に加えて、積極的な自然再生を行うことが望ましい。また、(1)、(2)および(3)のハビタットに生息する希少種については、2014年版の福岡県レッドデータブックを参照していただきたい。

(1)干潟・潮下帯

潮の満ち引き（潮汐）によって冠水と干出を繰り返す範囲を潮間帯と呼び、常に水域である範囲を潮下帯と呼ぶ。潮間帯の下部に形成される砂や泥などの細粒分が堆積した地形を干潟と称する。よって、基本的に干潟は河川の河口（後述する河川感潮域）から前浜（海岸線より沖側）にかけての沿岸域に形成される。県内の玄界灘では加布里湾、引津湾、博多湾（今津・和白）および津屋崎入江など、各地に小・中規模の干潟が分布する。周防灘と有明海の沿岸一帯には中・大規模の干潟が存在し、曾根干潟、長井浜および旧三池海水浴場などは希少種が豊富である。そのほか、一級水系や二級水系の河口部には河道や中州に沿って小規模の干潟が形成される。小規模河川でも希少種が豊富な場所もあり、玄界灘では一貴山川河口、響灘では原田川河口、周防灘では奥畑川河口、有明海では大牟田川河口がその代表例である。なお、「甲殻類等」の概論と各種の解説において県内の沿岸海域を示す際には、玄界灘、響灘、周防灘および有明海に大別している。このうち、玄界灘、響灘および周防灘の境界は文献によって異なるため、ここでは環境省の資料（https://www.env.go.jp/water/heisa/heisa_net/setouchiNet/seto/kankyojoho/sizenkankyo/gai_kyo.htm）に基づき響灘と周防灘の範囲を定めた。さらに局所を示す際には、湾や浜などの名称を表記した（例えば、博多湾や新宮浜など）。

干潟の景観、ひいては干潟を構成する環境は各地で様々である。例えば、先述した博多湾の今津干潟は泥や砂泥などの細粒分で構成されており、和白干潟は今津干潟よりも粒径の粗い砂で構成

された干潟が広がる。結果として、同じ博多湾に位置する干潟でありながら、今津干潟と和白干潟の生物相は異なる。ほかにも、河川内の干潟と前浜の干潟では、前者の方が淡水の影響を受けやすい。このような環境の相違が生じていることで、多種多様な生物種が生息できていることを理解する必要がある。言い換えれば、1か所の干潟だけでは干潟に依存して生息する生物を全て保全することはできないことを理解しなければならない。

(2)塩性湿地

塩生植物が生育する潮間帯上部の環境およびその周辺を塩性湿地と呼ぶ。本ハビタットも干潟と同様に河川の河口から前浜に沿って形成される。特に、玄界灘では雷山川河口や津屋崎入江、周防灘では祓川河口や上ノ河内川（上り松川）河口、有明海では筑後川河口と矢部川河口に発達した塩性湿地がみられ、希少種も豊富である。塩性湿地の中でも特にヨシ原やその縁辺をハビタットとする種は絶滅の危機に瀕するものが多い。これは塩性湿地自体が小規模であることに加えて、河岸のコンクリート化や道路拡幅といったインフラストラクチャー整備に伴い、多くのハビタットが劣化、消失および断片化したためである。加えて、発達したヨシ原は、河道の流下能力の低下を引き起こし、洪水時に河川氾濫のリスクが大きくなる。そのため、氾濫のリスクが高い河川では今後も頻繁にヨシ原が掘削されることとなる。いずれの事業も人間が豊かに、かつ安全に生活するうえで欠かせないものではあるが、その結果として多くの種が絶滅危惧あるいは準絶滅危惧に選定される状況となっていることを理解すべきである。

(3)河川感潮域

河川の中でも潮汐の影響を受けて水位変動が生じる区間を河川感潮域と呼ぶ。この区間には上述した干潟や塩性湿地が形成されるため、希少種が豊富である。加えて、干潟や塩性湿地の底質は比較的細粒分で構成されているが、河川感潮域の上流は粒径の粗い砂礫で構成されることがある。このような環境には、干潟や塩性湿地とは異なる生物が生息するため保全上重要である。しかしながら、河川感潮域は河口堰によってその連続性が失われやすく、玄界灘に流入する汐入川や遠賀川では河口堰によって感潮区間の消失が著しい。感潮区間から淡水区間にかけての連続性が確保されている河川は僅かである。

(4)淡水域

塩分の影響がない淡水域のハビタットとしては、具体的に河川、池沼、水田、水路、地下水域などが挙げられる。県内では大河川である山国川水系、今川水系、遠賀川水系、那珂川水系、筑後川水系、矢部川水系は淡水域のハビタットとして重要であり、加えて糸島市域や能古島、志賀島、大島などの小河川や上毛町域、豊前市域の池沼・水田・水路には現在も良好な環境が残されており、「甲殻類等」に該当する生物の保全上重要である。また、今回は詳細な調査ができなかったが、洞窟性、地下水性あるいは溪流性の甲殻類やウズムシ類については、希少種として評価しうる種が県内にも分布する可能性が高いことを付記しておく。今後、こうした環境の調査も必要である。河川域においては治水を目的とした改修事業や浚渫事業、水田域においては圃場整備事業による水路のコンクリート化や乾田化、ため池廃止事業などの影響で、良好な環境は県内全体で失われつつある。また、淡水域と海水域を行き来する通し回遊性のヌマエビ類にとっては、河川横断構造物の影響も無視できないものとなっている。

■ 保全対策

「甲殻類等」に掲載される多くの希少種の危機要因として、「河川開発」、「海岸開発」、「水質汚濁」、「産地局限」の4項目が頻出した。前3項目はハビタットの劣化と消失を引き起こし、結果としてハビタットの分断化による「産地局限」という危機も生じる。上述した(1)から(4)の重要なハビタットにおいては、これらの危機要因を排除することに加えて、希少種の生息数を増やすための自然再生を積極的に展開する必要がある。他方、掲載された希少種のいくつかは、他種との共生関係を有するため、宿主の減少が危機要因として挙げられている。これらは宿主も同様に希少種である可能性が高く、宿主のハビタットの保全に加えて、宿主の個体数の動態を長期的に評価すべきであろう。

上述した対策は主に福岡県行政が実施すべきことである。そのほか、本書の読者（個人や小規模組織）ができる保全活動をいくつか挙げておきたい。まず、「甲殻類等」の対象種（特に、絶滅危惧IA類や情報不足の種）は分布や生息量、生態などについて不明な点が多い。よって、本書に掲載されている希少種の多産地を発見した場合は福岡県環境部自然環境課にご報告いただきたい。本課は「福岡県希少野生生物分布情報」をデータベースとしてとりまとめており、希少種の分布情報を蓄積することが効果的な保全の一助となる。近年では特に、市民科学者による調査記録が保全に活用されつつある。例えば、カブトガニの生息状況を評価するうえで、各地の市民科学者が丹念に集積したモニタリングデータの貢献は非常に大きい。カブトガニに限らず、ハクセンシオマネキのような干潟表面で活動する生物は比較的観察が容易であり、個体数の変動などを各地でモニタリングできれば、その結果をもとに保全活動を展開できる可能性がある。

次に、野外にごみやペットを投棄・遺棄しないことである。福岡県内の干潟をスコップで掘ると、空き缶やプラスチック製品の破片、ビニール袋が頻出する。このような人工物は穴居性の生物に何かしら影響する可能性がある。そのほか、干潟に生息する甲殻類の体内にマイクロプラスチックが蓄積していることが明らかとなっている。また、ミシシippアカミミガメが甲殻類などを捕食していることやアメリカザリガニが水質汚濁を引き起こすことが明らかとなっている。よって、基本的な社会のルールを順守した生活を心がけるだけでも、野生生物の保全に少なからず寄与することを理解していただきたい。

■ 調査協力者名

乾 隆帝，今井隆博，亀井裕介，小宮春平，佐藤正典，下岡敏士，城内智行，長野 光，日比野友亮，福家悠介，逸見泰久，松島宏太，松本日向乃

本プロジェクトを遂行するにあたり、国立遺伝学研究所の福家悠介氏、当時九州大学の学部生、大学院生であった今井隆博氏、下岡敏士氏、松島宏太氏および松本日向乃氏には現地踏査、種の同定作業および遺伝子解析などについて多大なご協力をいただいた。また、同大学学部生の長野 光氏、魚類・甲殻類等分科会の乾 隆帝氏、同日比野友亮氏、貝類分科会の小宮春平氏、亀井裕介氏および城内智行氏には希少種など生物の分布情報、文献情報および貴重な標本をご提供いただいた。熊本大学の逸見泰久氏と鹿児島大学の佐藤正典氏には種の評価および本稿の執筆に関して多面的なご助言を賜った。ここに深くお礼を申し上げる。

■ 写真提供者名

小宮春平, 小山彰彦, 齋藤 稔, 酒井 耀, 下岡敏士, 中島 淳

■ 参考文献 (引用文献)

- 荒巻陽介, 田口啓輔, 菱木功至, 須田有輔, 村井武四 (2005) 福岡県柳川市沖端の干潟に出現するカニ類とメナシピンノの生態に関する一知見. 水産大学校研究報告, 53: 9-19.
- 福岡県 (2001) 福岡県の希少野生生物—福岡県レッドデータブック2001—. 福岡県環境部自然環境課.
- 福岡県 (2008) 川の生き物観察ガイドブック—増補改訂版—. 福岡県環境部環境保全課.
- 福岡県 (2014) 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014 —爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等—. 福岡県環境部自然環境課.
- 福岡県 (2019) 福岡県農林水産業・農山漁村の動向—平成30年度農林水産白書—. 福岡県農林水産部農林水産政策課.
- 福岡県 (2023) 福岡県農林水産業・農山漁村の動向—令和4年度農林水産白書—. 福岡県農林水産部農林水産政策課.
- 福岡県立北九州高等学校魚部 (編) (2011) 紫川大図鑑. 福岡県立北九州高等学校魚部.
- 福岡県水産林務部, 福岡県有明海漁業協同組合連合会 (1993) 有明海のさかな. 福岡県水産林務部.
- 福岡県水産振興課, 福岡県筑前海岸漁業振興協会 (1990) 玄海のさかな. 福岡県水産振興課.
- 浜野龍夫 (1991) シャコ類の生物学⑬—日本産シャコ類の分類と検索-17 ヒメシャコ科—. 海洋と生物, 12: 46-50.
- 浜野龍夫 (編) (2016) 水辺の小わぎ増補改訂2版. 山口県土木建築部河川課.
- Hayashi, O. (2022) Preliminary investigation of *Tachypleus tridentatus* (Tri-spine HSC at Sone tidal flat, Fukuoka Japan). In International horseshoe crab conservation and research efforts: 2007-2020: Conservation of horseshoe crabs species globally (pp. 215-245). Springer, Cham.
- 邊見由美, 塩崎祐斗, 山守瑠奈, 伊谷 行 (2019) 日本固有種ウモレマメガニの分布と生息場所, および山口県と高知県からの新記録. 日本ベントス学会誌, 74: 35-40.
- 石川久治 (1938) 実験・応用釣餌虫利用の研究. 釣餌料研究会.
- Itani, G., Davie, P. J. F., Takeda, M. (2002) Taxonomic notes on *Acmaeopleura balssi* Shen, 1932 and *A. toriumii* Takeda, 1974 (Crustacea, Brachyura, Grapsidae) from Japanese waters. Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Ser. A, 28: 43-50
- Itaya, S., Koyama, A., Shuuno, M., Onikura, N., Tai, A., Yano, S. (2023) Spawning habitat suitability maps for the conservation of the tri-spine horseshoe crab *Tachypleus tridentatus* in Tsuyazaki Cove, Fukuoka, Japan. Aquatic Conservation: Marine and Freshwater Ecosystems, 33: 884-896.
- 板谷晋嗣, 清野聡子, 和田年史, 秀野真理 (2019) 福岡県津屋崎入江におけるカブトガニ繁殖数の減少と累積的湾口改変による産卵基盤である砂州の劣化. 保全生態学研究, 24(2): 1817.
- 伊藤史郎 (2006) 有明海におけるクルマエビ共同放流事業. 日本水産学会誌, 72: 471-475.
- 環境省 (2007) 第7回自然環境保全基礎調査 浅海生態系調査 (干潟調査) 報告書. 環境省自然環境局自然環境計画課 生物多様性センター.
- 環境省 (2017) 環境省版海洋生物レッドリストの公表について.
<https://www.env.go.jp/press/103813.html>
- 環境省 (2020) 環境省レッドリスト2020の公表について.

<https://www.env.go.jp/press/107905.html>

小林元樹 (2021) 環形動物門の高次系統に関する概説. *Edaphologia*, 109: 9–17.

小林 哲 (2013) 福岡県古賀市の砂浜海岸で採集されたシマトラフヒメシャコ. *Cancer*, 22: 5–7.

Kobayashi, S., Yamada, K., Yoshino, K., Henmi, Y. (2019) Longitudinal distribution patterns of brachyuran crab (Crustacea, Decapoda) community along tidal rivers flowing into the inner area of Ariake Sea. *Proceedings of CWMD International Conference 2019*, 523–532.

古賀市 (2004) 古賀市自然環境調査報告書. 古賀市.

近藤裕介, 大塚 攻, 佐藤正典 (編) (2022) ハチの干潟の生きものたち—広島県竹原市に残る瀬戸内海の内原風景—. ネクパブ・オーサーズプレス.

是枝伶旺, 日比野友亮 (2022) 福岡県, 宮崎県, および鹿児島県から得られたマメアカイソガニの追加記録. *ニッチェ・ライフ*, 10: 45–46.

小山彰彦, 若林瑞希, 乾 隆帝, 鬼倉徳雄 (2018) 山口県および九州北岸におけるマメアカイソガニの分布と生息環境. *日本生物地理学会会報*, 72: 242–246.

熊本県希少野生動植物検討委員会 (編) (2019) レッドデータブックくまもと2019. 熊本県環境生活部自然環境課.

前之園唯史 (2017) 琉球列島初記録となるアリアケヤワラガニ (十脚目: 短尾下目: ヤワラガニ科) の記録. *Fauna Ryukyuana*, 37: 23–25.

前之園唯史, 成瀬 貫 (2015) 琉球列島のカクベンケイガニ属 (甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: ベンケイガニ科) 6 種の形態的特徴と分類学的諸問題. *Fauna Ryukyuana*, 23: 1–41.

三宅貞祥 (1982) 原色日本大型甲殻類図鑑(I). 保育社.

三宅貞祥 (1983) 原色日本大型甲殻類図鑑(II). 保育社.

宮本博和, 金澤孝弘 (2009) 標識放流からみたガザミ軟甲個体の移動と再放流効果. *福岡県水産海洋技術センター研究報告*, 19: 7–12.

長崎県 (2011) 長崎県レッドリスト (2011) 中間見直し.

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kurashi-kankyo/shizenkankyo-doshokubutsu/rarespecies/reddata/298016.html>

長崎県 (2022) 長崎県レッドリスト2022.

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kurashi-kankyo/shizenkankyo-doshokubutsu/rarespecies/reddata/547398.html>

日本ベントス学会 (編) (2012) 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会.

大庭元気, 佃 政則 (2019) 有明海佐賀県海域におけるクルマエビ漁獲量低迷の要因. *佐賀県有明水産振興センター研究報告*, 29: 14–18.

大分県 (2011) レッドデータブックおおいだ2011—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—.

<https://www.pref.oita.jp/10550/reddata2011/reddata2011/reddatabook.html>

大分県 (2022) レッドデータブックおおいだ2022—大分県の絶滅のおそれのある野生生物—.

<https://www.rdb-oita.jp/>

大谷拓也 (2016) 有明海湾奥部で採集されたヒメモクズガニ. *長崎県生物学会誌*, 79: 55–58.

Onuki, K., Fuke, Y. (2022) Rediscovery of a native freshwater shrimp, *Neocaridina denticulata*, and expansion of an invasive species in and around Lake Biwa, Japan: genetic and morphological approach.

Conservation Genetics, 23: 967–980.

岡山県 (2020) 岡山県レッドデータブック 2020 動物編. 岡山県野生動植物調査検討会.

佐賀県 (2004) 佐賀県レッドデータブック (レッドリスト).

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00314125/index.html>

酒井 恒 (1983) 日本および日本近海のかに類の新属, 新種ならびに分類学上分布学上の珍種について(I). 甲殻類の研究, 12: 1–44.

佐々木信男 (1969) 四国・九州産の淡水海綿について. 水産大学校研究報告, 17: 65–82+Plate I–VIII.

Sato, M. (2010) Anthropogenic decline of the peculiar fauna of estuarine mudflats in Japan. Plankton and Benthos Research, 5: 202–213.

Sato, M. (2013) Resurrection of the genus *Nectoneanthes* Imajima, 1972 (Nereididae: Polychaeta), with redescription of *Nectoneanthes oxypoda* (Marenzeller, 1879) and description of a new species, comparing them to *Neanthes succinea* (Leuckart, 1847). Journal of Natural History, 47: 1–50.

Sato, M., Kubo, A. (2009) New records of the nereidid polychaete *Leonnates persicus* from Japan, Korea, and Thailand, with a redescription of the holotype. Zoological Science, 26: 798–803.

関口晃一 (1993) 日本カブトガニの現況【増補版】. 日本カブトガニを守る会.

締次美穂 (2017) ウチノミカニダマシの再発見と生態観察の記録. 南紀生物, 59: 35–39.

自然環境定量評価研究会 (2019) 「曽根干潟における貴重種の特定と保護・保全活動」令和元年度活動報告書. http://teiryoken.jp/seika/rep1/2019_R1_03_kitakyu_teiryoyo.pdf

Silva-Morales, I., López-Aquino, M. J., Islas-Villanueva, V., Ruiz-Escobar, F., Bastida-Zavala, J. (2019) Morphological and molecular differences between the Amphiamerican populations of *Antillesoma* (Sipuncula: Antillesomatidae), with the description of a new species. Revista de Biología Tropical, 67: 101–109.

上田 拓 (2021) 有明海ガザミ漁業の標準化 CPUE. 福岡県水産海洋技術センター研究報告, 31: 41–46.

亘 真吾, 石谷 誠, 尾田成幸 (2011) 瀬戸内海豊前海におけるシャコの資源解析と資源状況. 日本水産学会誌, 77: 799–808.

WoRMS Editorial Board (2023) World Register of Marine Species.

<https://www.marinespecies.org>

山口県 (2019) レッドデータブックやまぐち2019: 山口県の絶滅のおそれのある野生生物.

<https://yamaguchi-rdb.com/site/index.php>

表 甲殻类等-1 新旧カテゴリー対照表

	福岡県RDB2014のカテゴリー							再選定 種数※	追加 種数※	掲載 種数※
	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧IA類	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	情報不足			
今回のカテゴリー	絶滅							0	0	0
	野生絶滅							0	0	0
	絶滅危惧IA類			カプトガニ カプトガニ フタツゲテッポウエビ ヒメモズガニ オオシャミセンガイ				5	0	5
	絶滅危惧IB類			マキガイイソギンチャク ウチノミカニダマシ アリアケヤウラガニ アリアケガニ オオヨコナガビノ シオマネキ				6	2	8
	絶滅危惧II類			カワスナガニ	ツバサゴカイ ウモレバンケイガニ アリアケモドキ ハクセンシオマネキ	アリアケカワゴカイ ヒメムツアシガニ クシテガニ ヒメアシハラガニ ヒガシナメクジウオ	ウチワゴカイ	11	0	11
	準絶滅危惧				ハシボソテッポウエビ	ウミサボテン ハナワケイソギンチャク ヒガタスナホリムシ クボミテッポウエビ テナガツノヤドカリ ヨモギホンヤドカリ バンケイガニ ハマガニ ハラグクレチゴガニ オサガニ ヒメヤマトオサガニ メナシビノ ミドリシャミセンガイ	イトメ フジテガニ ミナミアシハラガニ トリウミアカイソモドキ	18	8	26
	情報不足						ニッポンオフエリア シダレイトゴカイ アンチラサメハダホシムシ ギボシマメガニ	4	19	23
(合計)							44	29	73	

上位のカテゴリーに移行
 下位のカテゴリーに移行
 カテゴリー変更なし

	福岡県RDB2014のカテゴリー							合計種数
	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧IA類	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	情報不足	
今回除外した種※							タイワンヒライソモドキ	1

植物群落
植物等
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類
昆虫類
甲殻类等
クモ形类等
貝類

表 甲殻类等-1 (続き)

		今回追加した種			
今回のカテゴリー	絶滅				
	野生絶滅				
	絶滅危惧IA類				
	絶滅危惧IB類	アナジャコウロコムシ チスイビル			
	絶滅危惧II類				
	準絶滅危惧	コムシ スジホシムシモドキ シャコ	クルマエビ ミナミヌマエビ ハサミシャコエビ	ガザミ ヒメケフサイソガニ	
	情報不足	ハケカイメン ベルシャゴカイ トゲイカリナマコウロコムシ オオシマウロコムシ アカムシ	オクダウミイサゴムシ ムギワラムシ シマトラフヒメシャコ ヤマトヌマエビ ヒメヌマエビ	マングロープテッポウエビ アナジャコ ヨコナガモドキ マメアカイソガニ ウモレマメガニ	オオヒメアカイソガニ アカホシマメガニ ミサキギボシムシ トゲイカリナマコ

※ 再選定種数 …福岡県RDB2014の選定種のうち、今回（福岡県RDB2024）でも再び選定した種の数。
 追加種数 …福岡県RDB2014の選定種以外で、今回（福岡県RDB2024）において新たに選定した種の数。
 掲載種数 …福岡県RDB2024に選定した種の数。（「再選定種数」と「追加種数」の合計）
 今回除外した種…福岡県RDB2014の選定種のうち、再評価の結果、今回（福岡県RDB2024）は選定しなかった種。

植物群落

植物等

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻类等

クモ形类等

貝類

カブトガニウズムシ

Ectoplana limuli (Ijima & Kaburaki, 1916)

絶滅危惧ⅠA類(CR)

2014
絶滅危惧ⅠA類環境省
絶滅危惧Ⅰ類

選定理由 カブトガニに特異的に寄生する種であることから、近年カブトガニが激減している玄界灘側では本種も危機的状況にあるものと判断される。県内で本種を対象とした詳細な調査は行われていないが、2023年に今津湾（福岡市西区）産のカブトガニに寄生している個体が撮影されている。

危機要因 海岸開発、水質汚濁、産地局限、その他（宿主であるカブトガニの減少）

分布情報 北九州市小倉南区、福岡市西区、糸島市

種の概要 伸長時の体長約8mm、体幅約1mm。体は乳白色で細長く、頭部は丸くややとがる（鈍形）。頭部には1対の眼がある。カブトガニ成体の腹面の脚のつけ根などに寄生して生活する。卵はその鰓葉に産み付けられ、1個の卵殻から1～5個体の小虫が生まれる。岡山県から佐賀県にかけての、カブトガニ生息域に分布する。

特記事項 今後はカブトガニ調査にあわせて、本種の状況についても適宜記録しておく必要がある。



撮影：酒井 耀

カブトガニ

Tachypleus tridentatus (Leach, 1819)

絶滅危惧ⅠA類(CR)

2014
絶滅危惧ⅠA類環境省
絶滅危惧Ⅰ類

選定理由 本種はかつて県内の沿岸域に広く生息していたが、有明海では1970年代以降確認されておらず、玄界灘の個体群も危機的状況であり、現在では津屋崎入江や糸島半島の周辺に僅かに生息するのみである。産卵場（砂浜）、幼体の成育場（干潟）、成体の生息場（アマモ場）の劣化・消失によって、絶滅の危険性が非常に高い状況にある。国内最大級の産地である曾根干潟（北九州市）では近年増加傾向にあり、積極的な保全が望まれる。

危機要因 河川開発、海岸開発、水質汚濁、混獲、産地局限

分布情報 北九州市、福岡市、大牟田市（1970年代以降未確認）、行橋市、福津市、糸島市

種の概要 6～8月の大潮満潮時に砂浜の最満潮線付近で産卵。孵化した稚子は隣接した泥質干潟に移動して成長するが、亜成体は干潟外の藻場などで、成体は沖合で過ごすと考えられている。ゴカイ類などを捕食する。体長85cm。

特記事項 本種の各地における個体数評価は、情熱をもった市民科学者による多大な労力をかけた調査で成立している。今後、持続可能な調査方法の確立や、調査結果に対する順応的管理を積極的に実施することが求められる。



撮影：小山彰彦

フタツトゲテッポウエビ

Alpheus hoplocheles Coutière, 1897

絶滅危惧ⅠA類(CR)

2014
絶滅危惧ⅠA類環境省
絶滅危惧ⅠA類

選定理由 かつて、本種は筑後川河口の周辺でのみ確認されていたが、2014年以降、県内の有明海沿岸域において筑後川を含む3か所で生息が確認されている。しかしながら、いずれの生息地も生息個体数は極めて少なく、沿岸域の開発、干潟の浚渫などの人為的環境変化によって絶滅する危険性が非常に高い状況にあるため、前回と同様のランクとした。

危機要因 河川開発、海岸開発、水質汚濁、産地局限

分布情報 大牟田市、柳川市、みやま市

種の概要 東アジア海域の固有種で、タイプ産地は日本、アモイならびにマレー群島である。日本国内では採集例が少なく、有明海湾奥部に限定される。県外では佐賀県で確認されている。干潟から浅海の泥底に生息する。甲長15mm。

特記事項 本種の生態や生息環境が不明であるため、今後、詳細な調査が求められる。



撮影：小宮春平

ヒメモズガニ

Neeriocheir leptognathus (Rathbun, 1913)

絶滅危惧ⅠA類(CR)

2014
絶滅危惧ⅠA類環境省
絶滅危惧ⅠA類

選定理由 かつて、本種は県内では筑後川河口でのみ確認されていたが、2014年以降、矢部川水系で生息が確認されている。一方、既産地であった筑後川では近年確認されていない。確認された生息数は極めて少なく、河川や沿岸域の開発、干潟の浚渫などの人為的環境改変によって絶滅する危険性が非常に高い状況にあるため、前回と同様のランクとした。

危機要因 河川開発、海岸開発、水質汚濁、産地局限

分布情報 柳川市

種の概要 県外では佐賀県(塩田川と六角川河口周辺)で確認されている。他のモズガニ科の種のように両側回遊を行わないとされるが、長毛の密生する遊泳脚を持つことから、季節によってはかなり広い範囲を移動する可能性がある。干潟から浅海の泥底に生息する。甲幅25mm。

特記事項 かつての産地(筑後川水系の河口域)では近年確認されていないものの、現在も生息している可能性があるため、生息状況を評価するための調査活動が求められる。



撮影: 小宮春平

オオシャミセンガイ

Lingula adamsi Dall, 1873

絶滅危惧ⅠA類(CR)

2014
絶滅危惧ⅠA類環境省
絶滅危惧ⅠA類

選定理由 国内では1927年に福岡県(柳川市沖)から初めて記録され、その後1980年代までは複数の採集例があるが、2000年代以降は激減した。県内では2005年、2012年に大牟田市沖で採集されている。2022年4月に隣接する熊本県荒尾干潟で生体が発見されていることから、県内でも現存している可能性は高い。しかしながら、有明海的环境は悪化の一途を辿っており、極めて危機的な状況と考えられる。

危機要因 海岸開発、気候変動、水質汚濁、産地局限

分布情報 大牟田市

種の概要 殻長約70mm。長方形の暗褐色の殻から細長い赤茶色の軟体部(肉茎)が伸びる。殻の前縁部に1対の剛毛束を備える。低潮帯から潮下帯の砂泥底に生息し、殻を上にくら肉茎を下にした状態で底質中に潜って生活している。水深30mほどの場所からも採集されている。かつて記録のある瀬戸内海ではすでに絶滅し、国内では有明海のみ分布する。

特記事項 —



撮影: 中島 淳

マキガイイソギンチャク

Paranthus sociatus Uchida, 1940

絶滅危惧ⅠB類(EN)

2014
絶滅危惧ⅠB類環境省
—

選定理由 県内では加布里湾、津屋崎干潟、有明海(三池海岸、黒崎海岸)、周防灘(長浜井)に2000年代以降の生息情報がある。本種は主に生きたアラムシロの殻に付着して生活するが、有明海では外来種カラムシロの増加に伴い本種が減少している可能性がある。健全な産地は残るものの、県内全体での分布は局地的である。

危機要因 海岸開発、水質汚濁、産地局限、その他(外来種カラムシロの侵入に伴う宿主アラムシロの減少)

分布情報 大牟田市、行橋市、福津市、糸島市

種の概要 足盤径10mm。触手は白色で褐色の模様があり、体壁は緑褐色で橙色の縦条模様がある。砂泥質干潟の高潮帯に生息するアラムシロやイボウミニナなどの生きた巻貝類の殻上に付着する。県内ではアラムシロに付着している様子を見ることが多い。本州(伊勢湾)と九州に分布する。

特記事項 —



撮影: 中島 淳

アナジャコウロコムシ

Hesperonoe japonensis Hong, Lee & Sato, 2017

絶滅危惧IB類(EN)

2014

環境省
情報不足

選定理由 本種は県内の有明海（大牟田市）の沿岸で確認されている。本種はアナジャコの体表や巣穴を利用するが、他のアナジャコ類の巣穴共生種と比べても確認例が少なく、さらに、本種のタイプ産地である曽根干潟（北九州市）では近年確認されていない。よって、新規で絶滅危惧IB類とした。県外の産地でも減少が危惧されているが、具体的な減少要因は不明である。本種だけでなく、宿主の生息状況などについて詳細な調査が求められる。

危機要因 海岸開発、水質汚濁、産地局限、その他（宿主の減少）

分布情報 北九州市（近年では未確認）、大牟田市

種の概要 アナジャコの巣穴内に生息している。春から夏にかけて、体長2cm以下の幼体がアナジャコの体表に付着し、敏捷に動き回るのが観察される。秋以降、成体となるとアナジャコの体を離れ、巣穴の壁面で生活し、生殖を行うと考えられる。

特記事項 曽根干潟では冬季に数日かけてアナジャコの生息地にてアナジャコウロコムシ成体の探索を行ったが、確認できなかった。曽根干潟は本種のタイプ産地であるため、さらなる調査が求められる。



撮影：下岡敏士

チスイビル

Hirudo nipponia Whitman, 1886

絶滅危惧IB類(EN)

2014

環境省

選定理由 県内にはかつて広く分布していたと思われるが、過去の確実な生息記録を見出すことができなかった。近年の調査では県東部に3か所の産地が知られるのみで、県北部や南部での生息情報が得られたものの確認できなかった。圃場整備事業に伴う水田・水路の近代化やため池環境の悪化、農薬などによる水質汚濁の影響を受けて急速に減少しているものと考えられ、明らかに絶滅が危惧される状況にあることから、今回新たに評価を行った。

危機要因 湖沼開発、湿地開発、ため池改修、農薬使用、管理放棄、乾田化、産地局限

分布情報 みやこ町、上毛町

種の概要 体長約50mm。背面は緑色がかった茶褐色。背面に明褐色の5本の縦条があり、中央の線が最も太い。頭部には5対の眼がある。水田やため池などの浅い水域に生息し、扁平な体を上下に波打たせて遊泳することができる。主に哺乳類や両生類から吸血する。

特記事項 —



撮影：中島 淳

ウチノミカニダマシ

Polyonyx utinomii Miyake, 1953

絶滅危惧IB類(EN)

2014

絶滅危惧IB類

環境省

絶滅危惧IB類

選定理由 かつて県内における本種の分布記録は周防灘（北九州市）の沿岸のみであったが、近年では確認されていない。一方、有明海（大牟田市）や玄界灘（福岡市）においても本種が生息していることが明らかとなった。しかしながら、本種が宿主として利用するツバサゴカイが減少傾向にあること、分布域が宿主以上に狭小であることから、依然として絶滅の危険性が高い状況にあると考えられるため、前回と同様のランクとした。

危機要因 海岸開発、水質汚濁、産地局限、その他（宿主の減少）

分布情報 北九州市（近年では未確認）、福岡市、大牟田市

種の概要 2014年版RDBにはウチノミヤドリカニダマシとして掲載されていた。現状、本種は日本固有種であり、県外では三重県、高知県、広島県、熊本県などで確認されている。砂質から砂泥質の中潮帯から潮下帯に生息する多毛類ツバサゴカイの棲管内に共生する。一つの棲管内から雌雄のペアが見出されることが多い。アンテナ状の顎脚を使って懸濁物を摂取する。甲幅4mm。

特記事項 既産地である曽根干潟（北九州市）では本種の生息状況について詳細な調査が求められる。また、宿主であるツバサゴカイの生息地は県内にはいくつかあるため、各地で本種の生息の有無を評価することも必要である。



撮影：小山彰彦

アリアケヤワラガニ

Elamenopsis ariakensis (Sakai, 1969)

絶滅危惧ⅠB類(EN)

2014
絶滅危惧ⅠB類環境省
情報不足

選定理由 本種は県内では有明海沿岸でのみ確認されている。既産地である筑後川周辺では近年確認されていない。本種は軟泥から泥質干潟に生息するトゲイカリナマコの巣穴に共生するが、共生率は低いようである。生息地が局所的であることに加え、沿岸域の人為的開発の影響を受け絶滅する可能性が依然として高い状況にあると考えられるため、前回と同様のランクとした。

危機要因 海岸開発, 水質汚濁, 産地局限, その他(宿主の減少)

分布情報 大牟田市, 柳川市

種の概要 泥質から砂泥質の干潟に生息するトゲイカリナマコの巣穴に共生する(体表ではなく、巣穴の壁に定位)。宿主のトゲイカリナマコは有明海・八代海に豊富に生息するが、アリアケヤワラガニは稀である。県外では、大阪府沿岸、佐賀県、長崎県、熊本県、沖縄県で確認されている。甲幅5.5mm。

特記事項 宿主であるトゲイカリナマコは県内の周防灘でも確認されているため、アリアケヤワラガニの生息の有無を評価するための詳細な調査が求められる。

アリアケガニ

Cleistostoma dilatatum De Haan, 1833

絶滅危惧ⅠB類(EN)

2014
絶滅危惧ⅠB類環境省
絶滅危惧Ⅱ類

選定理由 本種は玄界灘の既産地(福岡市、福津市)で絶滅した可能性が非常に高い。周防灘では北九州市、行橋市および築上郡で確認されているが、各地の生息個体数は極めて少ない。有明海の中小河川における本種の生息地はいずれも小規模である。本種の生息する塩性湿地やその周辺域は河岸の埋立てや護岸工事によって劣化・消失しやすく、依然として絶滅の危険性が高い状況にあると考えられたため、前回と同様のランクとした。

危機要因 河川開発, 海岸開発, 湿地開発, 水質汚濁, 混獲, 産地局限

分布情報 北九州市, 福岡市(近年では未確認), 大牟田市, 柳川市, 行橋市, 福津市(近年では未確認), みやま市, 築上郡

種の概要 ヨシ原周辺やフクドなどの塩生植物群落の内部・周辺の泥地に巣穴を掘って生息する。巣穴を覆うように先端の窄まった煙突状構造物を巣穴周辺の泥で作ることがある。県外では、山口県、大分県、佐賀県、長崎県、熊本県で確認されている。甲幅24mm。

特記事項 本種は有明海においてシオマネキやヤマトオサガニなどとともに、「がん漬」という塩辛の材料として漁獲されているため、混獲の影響評価も求められる。



撮影: 小山彰彦

オオヨコナガピンノ

Tritodynamia rathbunae Shen, 1932

絶滅危惧ⅠB類(EN)

2014
絶滅危惧ⅠB類環境省
絶滅危惧ⅠB類

選定理由 本種は県内の玄界灘、周防灘および有明海の沿岸域各所で広く確認されているものの、いずれの海域でも局所分布で個体数は少ない。また、既産地である曾根干潟(北九州市)や矢部川では近年確認されていない。本種が宿主として利用するツバサゴカイが減少傾向にあることから、本種についても絶滅の危険性が高い状況にあると考えられるため、前回と同様のランクとした。

危機要因 河川開発, 海岸開発, 水質汚濁, 産地局限, その他(宿主の減少)

分布情報 北九州市(近年では未確認), 福岡市, 大牟田市, 柳川市(近年では未確認), 福津市

種の概要 砂泥底から砂底に生息するツバサゴカイの棲管内に共生する。甲幅10mmに満たない小型個体がツバサゴカイ類の棲管内から得られた例もある。第3歩脚先端が非常に鋭く、ツバサゴカイの頑丈な棲管を切り裂いて侵入、脱出する。同属のオヨギピンノと同様に、歩脚を用いて遊泳することがある。甲幅20mm。

特記事項 既産地である曾根干潟(北九州市)では近年未確認のため、本種の生息状況を把握するための詳細な調査が求められる。



撮影: 小山彰彦

シオマネキ

Tubuca arcuata (De Haan, 1835)

絶滅危惧ⅠB類(EN)

2014
絶滅危惧ⅠB類環境省
絶滅危惧Ⅱ類

選定理由 玄界灘の既産地(福岡市, 福津市, 古賀市)では, 博多湾(福岡市)のみ本種を確認できたが, 生息数は10個体未満と絶滅寸前である。周防灘および有明海では広範囲に分布するものの, 本種の生息環境である塩性湿地やその周辺部は人為的環境変化を受けやすく, 絶滅の危険性が高い状況にあると考えられるため, 前回と同様のランクとした。有明海で本種は「がん漬」という塩辛の材料にされており, 漁獲圧についても留意すべきである。

危機要因 河川開発, 海岸開発, 水質汚濁, 乱獲, 産地局限

分布情報 北九州市, 福岡市, 大牟田市, 柳川市, 行橋市, 古賀市(近年では未確認), 福津市(近年では未確認), みやま市, 築上郡

種の概要 内湾や河口域の塩性湿地周辺の泥質干潟に生息する。大潮満潮線付近を分布の中心とし, 各個体の巣穴保有期間は平均4~5日。巣穴移動範囲は4m以内とされる。甲幅35mm。

特記事項 玄界灘では絶滅の危険性が極めて高いため, 積極的な保全が求められる。



撮影: 小山彰彦

アリアケカワゴカイ

Hediste japonica (Izuka, 1908)

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
準絶滅危惧環境省
絶滅危惧ⅠB類

選定理由 本種は県内では有明海沿岸のみに分布する。本種は河川汽水域の泥質潮間帯に穴居するが, このような環境は河川改修や護岸工事などによって劣化・消失しやすい。実際, 県外の既産地(伊勢湾, 三河湾, 瀬戸内海)では1960年代以降本種が確認されておらず, これらの地域では絶滅した可能性が高い。よって, 県内においても個体群が今後さらに縮小する危険性があるため, 前回からランクを上げた。

危機要因 河川開発, 海岸開発, 湿地開発, 水質汚濁

分布情報 大牟田市, 柳川市, みやま市

種の概要 内湾奥部の河口周辺の軟泥干潟に穴居する。成熟個体は, 12~1月の大潮の日没後満潮直後に, 生殖群泳を行う。卵形約200 μ mで, 約10日間の浮遊幼生期を持つ。体長20cm。

特記事項 1960年代までは瀬戸内海の一部地域で生息していたことが明らかとなっている。よって, かつて県内の周防灘でも本種が生息していた(あるいは現在も生息している)可能性があるため, 詳細な調査が求められる。



撮影: 下岡敏士

ウチワゴカイ

Nectoneanthes uchiwa Sato, 2013

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
情報不足環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は県内では有明海(大牟田市, 柳川市, みやま市)で確認されている。周防灘の既産地(北九州市, 行橋市, 築上郡)では近年確認されていない。よって, 絶滅危惧Ⅱ類と判断した。本種は河川汽水域の泥質潮間帯に穴居するが, このような環境は河川改修や護岸工事などによって劣化・消失しやすい。よって, 個体群が縮小する危険性が高い。今後, 周防灘の個体群の状況が詳細に評価されることで, さらにランクが上がる可能性がある。

危機要因 河川開発, 海岸開発, 湿地開発, 水質汚濁

分布情報 北九州市(近年では未確認), 大牟田市, 柳川市, 行橋市(近年では未確認), みやま市, 築上郡(近年では未確認)

種の概要 内湾の泥質干潟に穴居する。有明海では, 4~5月の大潮の夜間満潮位時直後に, 生殖変態した成熟個体の生殖群泳が観察されている。成熟個体の体中部の疣足では, 通常剛毛が生殖剛毛に置き換わる。体長26cm。

特記事項 本種は周防灘で近年未確認であること, 2011年に行政の調査によって博多湾(福岡市)で記録があるものの標本を確認できていないことから, 詳細な生息状況を把握するための調査が望まれる。



撮影: 下岡敏士

ツバサゴカイ

Chaetopterus cautus Marenzeller, 1879

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
絶滅危惧Ⅱ類環境省
絶滅危惧ⅠB類

選定理由 本種は県内の沿岸域で散発的に確認されており、有明海（大牟田市）と玄界灘（福岡市）ではそれぞれ少なくとも数百個体が生息している。しかしながらそれ以外の玄界灘の産地（福津市，糸島市）では個体数が非常に少なく、古賀市では近年確認できていない。よって、前回と同様のランクとした。本種の生息場である砂質から砂泥質の干潟は人為的影響によって劣化・消失しやすいため、個体群が今後さらに縮小する危険性がある。

危機要因 海岸開発，水質汚濁，産地局限

分布情報 北九州市，福岡市，大牟田市，古賀市（近年では未確認），福津市，糸島市

種の概要 砂泥中に埋れし，U字状の棲管を造る。棲管中で水中の懸濁物をろ過している。干潟だけでなく，潮下帯（水深20m以浅）からもみつかっている。虫体を刺激すると強く発光する。体長25cm。

特記事項 本種のU字型の棲管は特徴的で他種と見分けやすい。そのため，干潟から露出する棲管から，市民科学向けの調査などで個体数を評価できる可能性がある。



撮影：下岡敏士

ヒメムツアシガニ

Mariaplax chenaе Rahayu & Ng, 2014

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は県内では有明海（大牟田市）と玄界灘（糸島市）の沿岸で確認されている。一方，既産地である箱崎浜（福岡市）では長らく確認されておらず，糸島市でも数個体しか確認できていないため，前回からランクを上げた。本種はトゲイカリナマコを筆頭に無脊椎動物の巣穴に共生するため，生息地の劣化・消失に加え，共生種の減少にも注意する必要がある。

危機要因 海岸開発，水質汚濁，産地局限，その他（宿主の減少）

分布情報 福岡市（近年では未確認），大牟田市，糸島市

種の概要 泥質から砂泥質の干潟に生息するトゲイカリナマコやユムシ，フサゴカイ類の巣穴に共生する。体色は本来白いが，表面が泥で覆われているため，周囲の底質と見分けにくい。甲幅10mm。

特記事項 県内では，トゲイカリナマコおよびサナダユムシの巣穴から採集されたほか，漁港の水表面を遊泳する個体も観察された。本種は潮下帯にも生息することから，今後，新産地が発見される可能性もある。



撮影：小山彰彦

ウモレベンケイガニ

Clistocoeloma sinense Shen, 1933

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
絶滅危惧Ⅱ類環境省
絶滅危惧Ⅱ類

選定理由 本種は県内の周防灘と有明海の汽水域に広く生息する一方，玄界灘での分布域は博多湾（福岡市）のみと狭小である。また，有明の既産地（筑後川水系と矢部川水系）では近年確認されていない。本種は塩性湿地の中でも特に地盤の高い範囲に生息するが，このような環境は護岸工事や道路工事などにより劣化・消失しやすく，個体群のさらなる縮小が危惧されるため，前回と同様のランクとした。

危機要因 河川開発，海岸開発，湿地開発，水質汚濁

分布情報 北九州市，福岡市，大牟田市，行橋市，豊前市，築上郡

種の概要 塩性湿地の高レベルにある打ち上げ物の下に埋れする。繁殖期は夏期。塩性湿地内にみられる他のベンケイガニ類とは違って動きは緩慢。甲幅16mm。

特記事項 —



撮影：小山彰彦

クシテガニ

Parasesarma affine (De Haan, 1837)

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
準絶滅危惧

環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は県内の周防灘と有明海の汽水域に広く生息するが、玄界灘の既産地（福岡市、福津市）では生息が長らく確認できておらず、絶滅した可能性が高い。本種の生息場である河川汽水域に位置する砂泥質の塩性湿地は、河川改修や護岸工事などによって劣化・消失しやすい環境である。よって、個体群が今後さらに減少する危険性があるため、前回からランクを上げた。

危機要因 河川開発、海岸開発、湿地開発、水質汚濁

分布情報 北九州市、福岡市（近年では未確認）、大牟田市、柳川市、行橋市、福津市（近年では未確認）、みやま市、築上郡

種の概要 別名オオユビアカベンケイガニ。国内では東京湾から九州までの広い分布域を持つ。沖縄県でも分布記録があるものの、種同定の正否については不明である。大きな内湾や大河川の河口域に限られる傾向がある。雑食性で、アシハラガニなどの他のカニ類も捕食する。甲幅28mm。

特記事項 玄界灘の分布について、三宅（1983）に福岡県津屋崎、福岡市浜男川、宇美川が示されている。これらの地域で、本種の標本は1950年代に福岡市内で得られたものが残されているが、それ以降本種の生息状況は不明である。



撮影：小山彰彦

ヒメアシハラガニ

Helicana japonica (Sakai & Yatsuzuka, 1980)

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
準絶滅危惧

環境省
準絶滅危惧

選定理由 現在、本種は県内の周防灘と有明海の汽水域に広く生息するが、玄界灘の既産地（福岡市、古賀市、福津市）では近年確認できておらず、糸島市に生息するのみである。本種は塩性湿地と干潟との境界部に形成される砂泥底や泥底に生息するが、このような環境は河川改修や護岸工事などによって劣化・消失しやすい。よって、個体群が今後さらに縮小する危険性があるため、前回からランクを上げた。

危機要因 河川開発、海岸開発、水質汚濁

分布情報 北九州市、福岡市（近年では未確認）、大牟田市、柳川市、行橋市、古賀市（近年では未確認）、福津市（近年では未確認）、みやま市、糸島市、築上郡

種の概要 砂泥質干潟に巣穴を掘って生活する。やや硬く乾燥した干潟に多い。肉食性が強く、主としてカニ類を捕食。雌雄ともに鉗脚を上下に振るwavingを行うが、何のための行動かはよくわかっていない。甲幅25mm。

特記事項 福岡市（博多湾）が本種のタイプ産地であるものの、近年では確認されていないため、詳細な調査が求められる。



撮影：小山彰彦

アリアケモドキ

Deiratonotus cristatus (De Man, 1895)

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
絶滅危惧Ⅱ類

環境省
—

選定理由 本種は県内の周防灘と有明海の汽水域に広く生息する。近年では、玄界灘と響灘の既産地の一部（福岡市と北九州市の紫川）で本種が確認されておらず、博多湾（福岡市）では絶滅した可能性が非常に高い。本種は河川汽水域の様々な環境を利用するが、いずれも河口堰の設置や河川改修、護岸工事などにより劣化・消失しやすく、個体群が今後さらに縮小する危険性があるため、前回と同様のランクとした。

危機要因 河川開発、海岸開発、湿地開発、水質汚濁

分布情報 北九州市、福岡市（近年では未確認）、大牟田市、柳川市、行橋市、豊前市、みやま市、糸島市、築上郡

種の概要 河川汽水域の泥質干潟や周辺の滞筋に生息する。活動は夜間の冠水下でみられる。遺伝的には、本州太平洋沿岸の個体群、北海道・九州北西岸・瀬戸内海の個体群、奄美大島の個体群の3つに大きく分かれる。甲幅19mm。

特記事項 —



撮影：小山彰彦

カワスナガニ

Deiratonotus japonicus (Sakai, 1934)

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
絶滅危惧ⅠB類環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は河川汽水域の潮間帯下部から潮下帯の砂礫底に生息する。福津市を除き、本種の既産地（玄界灘、響灘、周防灘）はいずれも、近年の調査で生息が確認されている。さらに、それら既産地周辺の河川からも多数の個体を確認されたため、前回からランクを下げた。しかしながら、河口堰の存在や河川改修など危機要因が解消されたわけではないため、依然として個体群減少の危険性が高い状況である。

危機要因 河川開発、海岸開発、水質汚濁

分布情報 北九州市、行橋市、豊前市、福津市（近年では未確認）、糸島市、築上郡

種の概要 日本固有種。分布域は広いが、生息する河川は房総半島、伊豆半島、紀伊半島、山口県、四国南岸、九州沿岸、種子島、奄美大島、沖縄島の一部に限られている。静穏な河川河口域の汽水域上流部の転石下に生息する。他の沿岸性のカニ類に比べて、個体群間の遺伝的変異が顕著であり、個々の個体群を保全する意義が大きい。甲幅11mm。

特記事項 —



撮影：小山彰彦

ハクセンシオマネキ

Austruca lactea (De Haan, 1835)

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
絶滅危惧Ⅱ類環境省
絶滅危惧Ⅱ類

選定理由 本種は県内に広く生息しており、既産地の一つである宗像市を除いて近年も生息が確認できている。また、既産地周辺においても複数の新産地が確認された。ただし、前回の評価時には大幅な個体数の減少が確認されているが、近年の調査では本種の個体数評価ができていない。また、本種の生息環境は依然として劣化・消失のリスクが高いことから、前回と同様のランクとした。

危機要因 河川開発、海岸開発、湿地開発、水質汚濁

分布情報 北九州市、福岡市、大牟田市、柳川市、行橋市、宗像市（近年では未確認）、古賀市、福津市、みやま市、糸島市、遠賀郡、築上郡

種の概要 やや礫混じりの堅い砂泥質干潟高潮帯に生息する。繁殖期は夏季で、雄の際立ったwavingがみられる。本種の雄は、繁殖期に巣穴にhoodという砂泥構造物を作る。甲幅21mm。

特記事項 —



撮影：小山彰彦

ヒガシナメクジウオ

Branchiostoma japonicum (Willey, 1897)

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2014
準絶滅危惧環境省
絶滅危惧Ⅱ類

選定理由 県内では福岡市東区志賀島、北九州市若松区白島や有明海（柳川市沖、大牟田市沖）で記録があるが、これらの産地での近年の生息情報はない。福津市津屋崎沖では九州大学による調査で近年も生息が確認されているものの、津屋崎沖における既存の産地では採集個体数が減少傾向にある。潮下帯における生息状況については不明な点も残るが、全体的には明らかに減少傾向にあるため、ランクを上げて評価した。

危機要因 海岸開発、水質汚濁

分布情報 福津市

種の概要 体長70mm。体は桃色がかった乳白色で、虹色の光沢がある。潮間帯から水深30mにかけての、貧栄養の砂礫底に潜って生活する。繁殖期は夏で、幼生は数か月の浮遊期を送った後に、底生生活に入る。体長60mmになるのに5年以上かかると考えられている。国内では本州・四国・九州に分布する。本種は1895年に志賀島（現在の福岡市東区）で採集された個体に基づいて記載された。

特記事項 —



撮影：中島 淳

ウミサボテン

Cavernularia obesa Milne-Edwards & Haime, 1850

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
一

選定理由 群体からなる円柱状で、最大50cmほどになる。砂泥底の潮間帯から潮下帯に生息する。近年も博多湾、津屋崎沿岸と周防灘での生息情報があるが、普通にみられる状況ではない。干潟環境の悪化は進展していることから、引き続き同ランクとして扱う。

分布情報 福岡市，行橋市，福津市，吉富町



撮影：下岡敏士

ハナワケイソギンチャク

Neocondylactis sp.

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
一

選定理由 有明海特産種であると考えられていたが、他の海域でも本種と思われる個体が確認されている。近年の県内における本種の個体数や生息地面積などの増減について評価できていないため、暫定的に前回と同様のランクとした。有明海沿岸ではイシワケイソギンチャクと並んで食用とされている。生息条件の悪化や乱獲による減少が危惧されている。体長40cm。

分布情報 柳川市

イトメ

Tylorrhynchus osawai (Izuka, 1903)

準絶滅危惧(NT)

2014
情報不足環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は県内の沿岸域に広く生息しており、絶滅の危険性は低いと思われる。しかしながら、近年では既産地である大根川（古賀市）では確認されておらず、福津市では非常に生息数が少ない。その他、大牟田川（大牟田市）では減少している。本種が穴居する河川感潮域の潮間帯上部の砂泥底は人為的な影響を受けやすく、今後も個体数や生息地が減少する可能性が高いため、準絶滅危惧と判断した。体長25cm（生殖型は6cm）。

分布情報 北九州市，福岡市，大牟田市，久留米市，柳川市，大川市，行橋市，豊前市，古賀市（近年では未確認），福津市，みやま市，糸島市，築上郡



撮影：下岡敏士

ユムシ

Urechis unicinctus (Drasche, 1880)

準絶滅危惧(NT)

2014

—

環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は釣り餌や食用として利用されている。周防灘（北九州市，行橋市）の個体群においては，聞き取りから減少が示唆されている。また，1930年代には玄界灘（博多湾）に複数の産地があったが，近年では確認例が乏しい。県内における減少は明らかであるが，その詳細については十分に評価できていないため，今回は新規で準絶滅危惧とした。今後の詳細な評価によって，絶滅危惧種にランクが上がる可能性が高い。体長15cm。

分布情報 北九州市，福岡市（近年では未確認），行橋市



撮影：下岡敏士

スジホシムシモドキ

Siphonosoma cumanense (Keferstein, 1867)

準絶滅危惧(NT)

2014

—

環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種はかつてタイやチヌの釣り餌として利用されており，1930年代には県内に多産していたことが報じられているが，現在では玄界灘（福津市，糸島市）および周防灘（北九州市）で散発的に確認されるのみである。しかしながら，減少要因や現在の生息状況について詳細な調査ができていないため，今回は新規で準絶滅危惧とした。今後の詳細な評価によって，絶滅危惧種にランクが上がる可能性が高い。体長40cm。

分布情報 北九州市，福津市，糸島市



撮影：下岡敏士

シャコ

Oratosquilla oratoria (De Haan, 1844)

準絶滅危惧(NT)

2014

—

環境省
—

選定理由 本種は県内の沿岸域に生息し，食用として利用されている。県内の主要産地である周防灘沿岸における漁獲量は盛期と比べると著しく減少しており，その数値だけで評価すると絶滅危惧種に相当する。しかしながら，近年の漁獲努力量，玄界灘や有明海の現況および減少要因などを十分に評価できていないため，新規で準絶滅危惧とした。今後，上記の不明瞭な点について評価することで，絶滅危惧種にランクが上がる可能性が高い。体長120mm。

分布情報 玄界灘，周防灘，有明海などの沿岸域

ヒガタスナホリムシ

Eurydice akiyamai Nunomura, 1981

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由 県内の記録は博多湾（福岡市）と遠賀郡のみである。福岡市の既産地では、近年確認されていない。本種は極めて小型のため調査の際に見逃しやすく、結果として生息状況を過小評価してしまう可能性がある。そのため、暫定的に前回と同様のランクとした。しかしながら、現状の分布は極めて局所的であり、生息場である河口の砂泥地は人為的な影響を受けやすいことから、今後、絶滅危惧種にランクが上がる可能性がある。体長7mm。

分布情報 福岡市（近年では未確認）、遠賀郡

クルマエビ

Marsupenaeus japonicus (Spence Bate, 1888)

準絶滅危惧(NT)

2014

環境省

選定理由 本種は、県内の沿岸域の砂泥底に生息する、本県を代表する水産有用種。漁獲量は、1990年代以降減少傾向が続いており、資源水準も低位で推移している。種苗放流による増殖が各海域で試みられているものの、漁獲量の回復には至っていない。体長200mm。

分布情報 玄界灘、響灘、周防灘、有明海の沿岸域



撮影：小山彰彦

ミナミヌマエビ

Neocaridina denticulata (De Haan, 1884)

準絶滅危惧(NT)

2014

環境省

選定理由 本種は、県内の純淡水域に広く分布している。流れが穏やかな場所で河岸植生や沈水植物を隠れ家として利用し、生息密度も高い場合が多い。しかし、本種と交雑可能な同属の国外外来種が日本各地に定着しており、本県でもシナヌマエビ *Neocaridina davidi* が各地で確認されている。今後、遺伝的攪乱の進行が懸念される。本県産のほかの淡水産エビ類の多くとは異なり、一生を通じて淡水で生活する純淡水種。体長30mm。

分布情報 北九州市門司区、福岡市東区、八女市、行橋市、福津市、糸島市、筑前町



撮影：齋藤 稔

ハシボソテッポウエビ

Alpheus dolichodactylus Ortmann, 1890

準絶滅危惧(NT)

2014
絶滅危惧II類環境省
準絶滅危惧

選定理由 県内において、本種の記録は有明海沿岸のみであったが、近年の調査によって玄界灘（福岡市，糸島市）と周防灘沿岸（北九州市，行橋市，豊前市，築上郡）にも本種が生息していることが明らかとなったため、ランクを下げた。ただし、本種の生息数は依然として不明であり、生息環境である沿岸の軟泥底は減少傾向にあるため、今後絶滅の危険性が高まる可能性がある。甲長20mm。

分布情報 北九州市，福岡市，大牟田市，柳川市，大川市（近年では未確認），行橋市，豊前市，みやま市，糸島市，築上郡



撮影：小山彰彦

クボミテッポウエビ

Stenolpheops anacanthus Miya, 1997

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種はアナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に共生する。本種の分布記録はかつて周防灘（北九州市）のみであったが、近年の調査で玄界灘および有明海沿岸からも確認された。多くの新産地が発見されたものの、玄界灘の個体群の分布は狭小で個体数も少ないことから、人為的な影響を受けて、生息地が縮小した可能性がある。今後、局所的な絶滅の危険性があるため、前回と同様のランクとした。甲長7mm。

分布情報 北九州市，福岡市，大牟田市，行橋市，豊前市，糸島市，築上郡



撮影：小山彰彦

ハサミシャコエビ

Laomedia astacina De Haan, 1841

準絶滅危惧(NT)

2014

環境省

選定理由 本種は周防灘と有明海では安定的に確認されている。一方、玄界灘の既産地である古賀市と和白干潟（福岡市）では近年確認されておらず、現在は福岡市の一部地域と福津市で確認されるのみである。よって、個体群の局所的な減少が認められたため、新規で準絶滅危惧とした。生息場である潮間帯上部の転石帯は人為的な影響によって消失しやすい点から、今後、絶滅危惧種にランクが上がる可能性がある。体長5cm。

分布情報 北九州市，福岡市，大牟田市，柳川市，行橋市，豊前市，古賀市（近年では未確認），福津市，築上郡



撮影：小山彰彦

テナガツノヤドカリ

Diogenes nitidimanus Terao, 1913

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
情報不足

選定理由 本種は玄界灘（福津市）、周防灘（北九州市、行橋市）および有明海（大牟田市）など県内で散発的に確認されている。本種が生息する砂質干潟が広がる環境は県内では限られている。現状、本種の個体群や生息範囲について明確な減少・消失は確認されていないものの、生息環境は人為的な影響を受けやすいことから、暫定的に前回と同様のランクとした。甲長10mm。

分布情報 北九州市、大牟田市、行橋市、福津市



撮影：小山彰彦

ヨモギホンヤドカリ

Pagurus nigrofascia Komai, 1996

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は過去に牧ノ鼻（福岡市）で確認されているが、近年では十分に調査されておらず、生息状況は不明である。本種の生息環境の潮間帯から潮下帯にかけての転石帯は人為的な影響を受けやすいため、暫定的に前回と同様のランクとした。現状の分布は1地点のみであるため、今後、詳細な調査に基づき絶滅危惧種にランクが上がる可能性がある。甲長13mm。

分布情報 福岡市（近年の生息状況は不明）

ガザミ

Portunus trituberculatus (Miers, 1876)

準絶滅危惧(NT)

2014

環境省

選定理由 本種は、県内の沿岸域の砂泥底に広く生息しており、現時点での絶滅のリスク自体は低いと考えられる。本県を代表する水産有用種。漁獲量は2010年代以降減少傾向にあり、資源水準が低位で推移している。抱卵個体や小型個体の再放流や種苗放流が行われているものの、漁獲量の回復には至っていない。同属のタイワンガザミ *Portunus pelagicus* は鉗脚（はさみ脚）長節にとげが3個あり、4個の本種と識別可能。甲幅200mm。

分布情報 玄界灘、響灘、周防灘、有明海の沿岸域



撮影：小山彰彦

フジテガニ

Clistocoeloma nobile Lee, Ng & Ng, 2023

準絶滅危惧(NT)

2014
情報不足環境省
準絶滅危惧

選定理由

本種は県内では玄界灘（福岡市，福津市）および周防灘（北九州市）で確認されている。確認地点数は増加したものの，各地の生息数も多くはないこと，および生息場である潮間帯上部の転石帯は人為的な影響によって消失しやすい点から，準絶滅危惧と判断した。ただし，本種はいわゆる南方種であり，気候変動に伴い，今後は個体数や生息地が増加し，選定から除外される可能性がある。甲幅17mm。

分布情報

北九州市，福岡市，福津市



撮影：小山彰彦

ベンケイガニ

Orisarma intermedium (De Haan, 1835)

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由

本種は県内の沿岸域に広く生息しており，絶滅のリスクは低いと思われる。しかしながら，近年では既産地である紫川（北九州市）では確認されていない。本種が穴居する潮間帯上部から潮上帯は人為的な影響を受けやすく，個体数は減少している可能性が非常に高いことから，前回と同様のランクとした。甲幅35mm。

分布情報

北九州市，福岡市，大牟田市，柳川市，行橋市，宗像市，古賀市，福津市，みやま市，糸島市，遠賀郡，築上郡



撮影：小山彰彦

ハマガニ

Chasmagnathus convexus (De Haan, 1835)

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由

本種は県内に広く生息しており，絶滅のリスクは低いと思われる。しかしながら，既産地である紫川（北九州市），多々良川（福岡市）では近年確認されていない。本種が穴居する河川汽水域の潮間帯上部から潮上帯は人為的な影響を受けやすく，局所的な個体群の劣化・消失が明らかであるため，前回と同様のランクとした。甲幅50mm。

分布情報

北九州市，福岡市，大牟田市，柳川市，行橋市，豊前市，古賀市，福津市，みやま市，糸島市，遠賀郡，築上郡



撮影：小山彰彦

ヒメケフサイソガニ

Hemigrapsus sinensis Rathbun, 1931

準絶滅危惧(NT)

2014
—環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は県内では周防灘（北九州市，行橋市，築上郡）および有明海（大牟田市，柳川市，みやま市）で確認されている。有明海沿岸では安定的に確認されるが，周防灘では個体数が少なく，本種の生息場であるカキ礁は人為的な影響を受けやすいことから，新規で準絶滅危惧とした。今後，絶滅危惧種にランクが上がる可能性がある。甲幅10mm。

分布情報 北九州市，大牟田市，柳川市，行橋市，みやま市，築上郡



撮影：小山彰彦

ミナミアシハラガニ

Pseudohelice subquadrata (Dana, 1851)

準絶滅危惧(NT)

2014
情報不足環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は玄界灘から響灘にかけての沿岸で確認されているが，既産地の一つである北九州市では近年確認されていない。各地の生息数は少なく，生息場である潮間帯上部の転石帯は人為的な影響によって消失しやすい点から，準絶滅危惧と判断した。ただし，本種は気候変動に伴い，個体数や生息地が今後増加し，選定から除外される可能性がある。甲幅20mm。

分布情報 福岡市，古賀市，福津市，糸島市，遠賀郡



撮影：小山彰彦

トリウミアカイソモドキ

Sestrostoma toriumii (Takeda, 1974)

準絶滅危惧(NT)

2014
情報不足環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種はアナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に共生する。本種は県内の沿岸域に広く生息するが，既産地である響灘の紫川（北九州市）では近年確認されていないため，準絶滅危惧と判断した。ただし，本種は巣穴共生種である点，小型で見逃しやすい点から，過小評価されやすい。今後，詳細な調査結果によっては，選定から除外される可能性がある。甲幅9mm。

分布情報 北九州市，福岡市，大牟田市，行橋市，宗像市，糸島市，築上郡



撮影：小山彰彦

ハラグレチゴガニ

Ilyoplax deschampsii (Rathbun, 1913)

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由 県内において、本種は有明海沿岸のみで確認されている。有明海の河川にしか分布しないものの、生息地点は多く、各所の生息地面積も広い。結果として生息数は豊富であり、現状では県内で絶滅の危険性は低いと判断される。ただし、生息環境である河川感潮域の泥質潮間帯は、河川水の流下能力確保を目的とした掘削や護岸整備などで消失しやすいため、前回と同様のランクとした。甲幅10mm。

分布情報 大牟田市、久留米市、柳川市、みやま市



撮影：小山彰彦

オサガニ

Macrophthalmus abbreviatus Manning & Holthuis, 1981

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は県内では玄界灘（福岡市、古賀市、福津市、糸島市）、響灘（北九州市）、周防灘（北九州市、行橋市）、有明海（大牟田市）で確認されている。このように県内に広く分布するものの、有明海の既産地（矢部川）では近年確認されていない。また、前回評価時には和白干潟（福岡市）での激減が報告されており、近年の調査でも個体数は少ない状況のままであるため、前回と同様のランクとした。甲幅35mm。

分布情報 北九州市、福岡市、大牟田市、行橋市、古賀市、福津市、糸島市、築上郡



撮影：小山彰彦

ヒメヤマトオサガニ

Macrophthalmus banzai Wada & Sakai, 1989

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由 玄界灘から周防灘にかけての沿岸（北九州市、行橋市、宗像市、福津市）で本種の生息が確認されている。現状、本種の生息地の多くは小規模で生息数も多くはないことから、埋立てや掘削などの環境変化によって個体群が消失するリスクがある。そのため、前回と同様のランクとした。ただし、近年では分布拡大の報告があるため、気候変動に伴い、今後は個体数や生息地が増加し、選定から除外される可能性がある。甲幅23mm

分布情報 北九州市、行橋市、宗像市、福津市



撮影：小山彰彦

メナシピンノ

Xenophthalmus pinnotheroides White, 1846

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は有明海沿岸（大牟田市）で生息が確認されているが、有明海の既産地（柳川市）や響灘や周防灘の既産地（洞海湾や北九州市）では近年確認されていない。本種は潮間帯から水深20m程度の範囲で生息するため、新産地が発見される可能性がある。よって、暫定的に前回と同様のランクとした。ただし、本種が生息する沿岸の砂泥底は人為的な影響を受けやすく、今後、絶滅危惧種にランクが上がる可能性がある。甲幅15mm。

分布情報 北九州市（近年では未確認）、大牟田市、柳川市（近年では未確認）



撮影：小山彰彦

ミドリシャミセンガイ

Lingula sp.

準絶滅危惧(NT)

2014
準絶滅危惧環境省
情報不足

選定理由 殻長約50mm。長方形の緑褐色の殻から細長い軟体部（肉茎）が伸びる。低潮帯から潮下帯の砂泥底から泥底に生息する。県内では周防灘と有明海に分布する。環境の悪化と高い漁獲圧による影響を受けていると思われ、引き続き注意が必要な状況にある。近年の分子系統学的な研究から、複数種を含む種群であることが明らかにされたが、県内の状況は不明のため区別せずに学名未決定種として評価した。

分布情報 北九州市、大牟田市、柳川市、行橋市



撮影：中島 淳

ハケカイメン

Pectispongilla subspinosa Annandale, 1911

情報不足(DD)

2014
—環境省
情報不足

選定理由 灰褐色から暗褐色。骨格骨片は表面に微細棘があり、芽球骨片は両端が扁平で片面に湾曲した小棘を列生する。静水から流水の基質に付着し、殻層状または小塊状となる。採集年月日は不明であるものの、「東大橋田圃の溝・福岡市」から記録されている（佐々木、1969）。記録地周辺の環境は都市化により激変しており、ここではすでに絶滅している可能性が高いが、県内のタンスイカイメン類の調査は不足している。

分布情報 福岡市南区

ペルシャゴカイ

Leonnates persicus Wesenberg-Lund, 1949

情報不足(DD)

2014

環境省

選定理由 本種は県内では、周防灘（北九州市，行橋市）および有明海（大牟田市，矢部川沖）で確認されている。本種は2009年に国内初記録として報告されたため分布情報が少ないが、内湾奥部の潮間帯から潮下帯（水深30m以浅）の砂泥底から泥底で確認されている。このような環境は人為的な影響を受けて消失傾向にあったことから、本種も生息数や生息域が減少している可能性がある。よって、新規で情報不足とした。体長6cm。

分布情報 北九州市，大牟田市，行橋市



撮影：下岡敏士

トゲイカリナマコウロコムシ

Arctonoella sp.

情報不足(DD)

2014

環境省

選定理由 本種は県内では、有明海（大牟田市）のみで確認されている。本種はトゲイカリナマコの巣穴の内壁面に付着して生活する。本種の分布域が狭小であること、宿主であるトゲイカリナマコの減少が示唆されていることから、トゲイカリナマコウロコムシの生息数や生息域が減少している可能性がある。よって、新規で情報不足とした。体長2cm。

分布情報 大牟田市



撮影：下岡敏士

オオシマウロコムシ

Perolepis ohshimai (Okuda, 1936)

情報不足(DD)

2014

環境省

選定理由 本種は県内では有明海沿岸（大牟田市）のみで確認されている。潮間帯から潮下帯にかけて確認されているが、国内での本種の記録は非常に稀であり、生息状況は不明である。県内では潮間帯においてトゲイカリナマコの巣穴内で複数回確認されているものの個体数は非常に少なく、生息環境の劣化・消失によって個体数が減少している可能性がある。よって新規で情報不足とした。体長10cm。

分布情報 大牟田市



撮影：下岡敏士

アカムシ

Halla okudai Imajima, 1967

情報不足(DD)

2014

—

環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は博多湾（福岡市），および1930年代に有明海で報告されているが，県内では近年確認できていない。この状況から県内において本種の個体群の縮小あるいは生息地の劣化・消失が危惧されるが，詳細が不明なため情報不足とした。本種は潮間帯から潮下帯にかけての砂底・砂泥底に生息し，県外の有明海や瀬戸内海で記録がある。体長90cm。

分布情報 福岡市（近年では未確認），有明海沿岸（近年では未確認）

ニッポンオフエリア

Travisia japonica Fujiwara, 1933

情報不足(DD)

2014
情報不足環境省
—

選定理由 本種は県内では既産地として周防灘（行橋市）が知られているほか，近年では玄界灘（福津市，糸島市）でも本種と同定される個体が採集されている。いずれの産地も前浜に位置する砂質の潮間帯から潮下帯であった。このような砂質環境は県内の各地にあるため，本種の分布域は広い可能性がある。ただし，現状では本種の生息状況を十分に評価できていないため，前回と同様のランクとした。体長5cm。

分布情報 行橋市，福津市，糸島市



撮影：下岡敏士

シダレイトゴカイ

Notomastus latericeus Sars, 1851

情報不足(DD)

2014
情報不足環境省
—

選定理由 本種は前回の評価時から県内の新産地が確認されていない。また，既産地（矢部川）でも近年本種は確認されていない。本種は分類学的に検討が必要な状況もあり，暫定的に前回と同様のランクとした。安定した干潟環境を必要とするため，干潟の消失・悪化により，生息地が減少していると考えられる。体長30cm。

分布情報 矢部川水系（近年では未確認）

オクダウミイサゴムシ

Pectinaria okudai (Imajima & Hartman, 1964)

情報不足(DD)

2014

環境省

選定理由 本種は玄界灘（福岡市，糸島市）および周防灘（北九州市，行橋市，豊前市，築上郡）の河川汽水域で確認されている。本種は潮間帯から潮下帯の泥底に多くみられるが，このような環境は人為的な影響を受けやすく，個体数の減少が危惧されるため，新規で情報不足とした。ただし，本種を含むウミイサゴムシ類は種同定が十分にされていないことが多く，今後，多くの産地が発見されることでリストから除外される可能性もある。体長3cm。

分布情報 北九州市，福岡市，行橋市，豊前市，糸島市，築上郡



撮影：下岡敏士

アンチラサメハダホシムシ

Antillesoma antillarum (Grube & Öersted, 1858)

情報不足(DD)

2014

情報不足

環境省

選定理由 本種と思われる個体が周防灘（北九州市，行橋市）で採集されているほか，過去に有明海（筑後川水系）でも記録がある。しかしながら，近年の分子系統解析によって，海外産のアンチラサメハダホシムシと同定される種には複数の遺伝的集団が存在することが明らかとなった（Silva-Morales et al. 2019）。そのため，国内に産する本種についても分類学的な検討が必要であると考えられる。現況を踏まえ，暫定的に前回と同様のランクとした。体幹長16cm。

分布情報 北九州市，行橋市（ただし，いずれも本種と断定できていない），筑後川水系（近年では未確認）

ムギワラムシ

Mesochaetopterus japonicus Fujiwara, 1934

情報不足(DD)

2014

環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は県内では玄界灘（宗像市，福津市，糸島市），周防灘（北九州市，行橋市，築上郡），有明海（大牟田市）といった沿岸各所で確認されている。過去の生息状況は不明であるが，本種の生息する前浜の潮間帯から潮下帯の砂底は人為的な影響を受けやすい。よって，これまでに本種の個体数や生息地が減少している可能性も考えられるため，新規で情報不足とした。体長20cm。

分布情報 北九州市，大牟田市，行橋市，宗像市，福津市，糸島市，築上郡



撮影：下岡敏士

シマトラフヒメシヤコ

Bigelowina phalangium (Fabricius, 1798)

情報不足(DD)

2014

環境省

選定理由 本種は県内では、周防灘（北九州市，行橋市）で確認されている。また，過去には玄界灘の新宮浜から津屋崎沿岸でも本種あるいは本種の巢穴に共生するニッポンヨーヨーシジミが確認されている。本種は砂質の潮下帯に生息しており，その生息状況を評価することが非常に難しいため，情報不足とした。甲長14mm。

分布情報 北九州市，行橋市，新宮浜から津屋崎沿岸（近年では未確認）



撮影：小山彰彦

ヤマトヌマエビ

Caridina multidentata Stimpson, 1860

情報不足(DD)

2014

環境省

選定理由 玄界灘流入河川の一部で局所的に確認されている。海と川を行き来する通し回遊種であり，樹冠が閉じた渓流域が成体の主な生息場である。そのため，稚エビの歩脚が滑る様な金属製の河道横断構造物による遡上阻害や，三面護岸化による日中の隠れ家の喪失などの影響を受けていると考えられる。また，観賞用としての採集圧も懸念される。ただし，過去の生息状況が不明であるため，情報不足として新規掲載した。体長45mm。

分布情報 糸島市，岡垣町



撮影：齋藤 稔

ヒメヌマエビ

Caridina serratiostris De Man, 1892

情報不足(DD)

2014

環境省

選定理由 玄界灘および周防灘流入河川の一部で確認されている。河川の汽水域上端付近から純淡水の下流域に分布する。河川への加入後は，流れの緩やかな場所にて，植生帯や転石下を隠れ家として利用する。生息密度は，同所的にみられる同属のミゾレヌマエビと比べて大幅に低い。本種の生息環境は潮止堰の建設などによって消失しやすい。ただし，過去の生息状況が不明であることから，情報不足として新規掲載した。体長25mm。

分布情報 北九州市門司区，福津市，糸島市，岡垣町



撮影：齋藤 稔

マングローブテッポウエビ

Alpheus nomurai Anker, 2023

情報不足(DD)

2014

環境省
準絶滅危惧

選定理由

本種は県内では周防灘と有明海で広く確認されている。一方、玄界灘での分布は博多湾（福岡市）と津屋崎入江（福津市）に限られており、個体数が少ない。本種が穴居する泥質の潮間帯は人為的な影響を受けやすく、県外のいくつかの地域では本種の減少が危惧されている。県内の玄界灘における局所性が人為的な影響であるのか定かではないため、情報不足とした。体長4cm。

分布情報

北九州市，福岡市，大牟田市，柳川市，行橋市，豊前市，福津市，みやま市，築上郡



撮影：小山彰彦

アナジャコ

Upogebia major (De Haan, 1841)

情報不足(DD)

2014

環境省

選定理由

本種は県内の周防灘と有明海沿岸域で広く確認されている。一方、玄界灘（福岡市）でも確認されているが、大型の成体は少なく、既産地である古賀市では近年確認されていない。現状、絶滅の危険性は低いが、個体群の縮小が示唆されるため、新規で情報不足とした。本種は潮間帯下部から潮下帯にかけて生息すること、大きい個体では巣穴の深さが1mを超えることから、潮下帯の個体群は特に過小評価される可能性がある。体長10cm。

分布情報

北九州市，福岡市，大牟田市，行橋市，古賀市（近年では未確認），築上郡



撮影：小山彰彦

ヨコナガモドキ

Asthenognathus inaequipes Stimpson, 1858

情報不足(DD)

2014

環境省
準絶滅危惧

選定理由

本種は県内では有明海（大牟田市）で確認されている。また、標本を確認できていないものの、周防灘（北九州市）でも本種の記録がある。本種の県内における過去の生息状況は不明であるが、アリアケヤワラガニ（絶滅危惧IB類）やヒメムツアシガニ（絶滅危惧II類）と同様にトゲイカリナマコの巣穴に共生するため、上述したカニ類と同様に個体群が縮小している可能性がある。甲幅10mm。

分布情報

北九州市，大牟田市



撮影：小山彰彦

マメアカイソガニ

Cyclograspus pumilio Hangai & Fukui, 2009

情報不足(DD)

2014
—環境省
情報不足

選定理由 本種は県内では玄界灘（福津市，糸島市，糟屋郡，遠賀郡）に面する沿岸域でのみ確認されている。現状の各生息地での個体数は多いものの，本種の生息環境である潮間帯上部（満潮線付近）の礫浜は，かつての道路や護岸開発によって既に消失している可能性が高い。過去の生息状況が不明であるため，情報不足とした。今後詳細な生息状況の評価が求められる。甲幅10mm。

分布情報 福津市，糸島市，糟屋郡，遠賀郡



撮影：小山彰彦

ウモレマメガニ

Pseudopinnixa carinata Ortmann, 1894

情報不足(DD)

2014
—環境省
絶滅危惧Ⅱ類

選定理由 本種は県内では周防灘（北九州市）と玄界灘（糸島市）で確認されている。過去と現在の生息状況が不明であるため，情報不足とした。本種は砂泥質の潮間帯に生息する無脊椎動物の巣穴からしばしば採集され，県内ではスナモグリ類の巣穴から確認されている。県外では生息地の悪化などにより減少が示唆されているため，今後の詳細な評価を経て，絶滅危惧種にランクが上がる可能性がある。甲幅14mm。

分布情報 北九州市，糸島市



撮影：小山彰彦

オオヒメアカイソガニ

Sestrostoma balssi (Shen, 1932)

情報不足(DD)

2014
—環境省
絶滅危惧Ⅱ類

選定理由 県内では周防灘（北九州市）のみで確認されている。県内での確認例が非常に限られており，生息状況が不明であるため情報不足とした。本種はコムシの巣穴に共生する。県内ではコムシの生息数の減少が示唆されていることに加えて，オオヒメアカイソガニの確認地点数はコムシの確認地点数よりも少ないことから，今後の詳細な評価を経て，絶滅危惧種にランクが上がる可能性がある。甲幅10mm。

分布情報 北九州市



撮影：小山彰彦

アカホシマメガニ

Indopinnixa haematosticta (Sakai, 1934)

情報不足(DD)

2014

—

環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は近年、形態の再記載が行われた。スジホシムシモドキの巣穴に共生することが知られている。県内では玄界灘（福津市）でアカホシマメガニと同定される標本（2010年採集）が確認されたが、この地域では近年確認されていない。周防灘（北九州市）でも本種と形態的に類似した個体が採集されているものの、甲幅は甲長の約1.8倍程度であり、別種の可能性がある。いずれの産地でもスジホシムシモドキが確認されている。甲幅6mm。

分布情報 福津市（近年では未確認）

ギボシマメガニ

Pinnixa balanoglossana Sakai, 1934

情報不足(DD)

2014

情報不足

環境省
絶滅危惧II類

選定理由 本種は過去に県内の有明海沿岸（柳川市）で確認されている。近年では、玄界灘（福津市、糸島市）において宿主であるギボシムシ類の生息地で本種と思われる個体が採集されているが、いずれも小型であり、本種と断定できていない。よって、県内の生息状況は依然として不明であるため、前回と同様のランクとした。沿岸の砂底において、より詳細な調査が求められる。甲幅10mm。

分布情報 柳川市（近年では未確認）

ミサキギボシムシ

Balanoglossus misakiensis Kuwano, 1902

情報不足(DD)

2014

—

環境省
準絶滅危惧

選定理由 本種は過去に曾根干潟（北九州市）で採集されたことが聞き取りによって得られているが、近年では県内で確認されていない。現状の県内の生息状況は不明であるが、県外では個体数の減少などが危惧されているため、新規で情報不足とした。本種は干潟から浅海の砂泥中に生息するが、このような環境は県内各所に散在するため、今後詳細な調査が求められる。体長85cm。

分布情報 北九州市（近年では未確認）

トゲイカリナマコ

Protankyra bidentata (Woodward & Barrett, 1858)

情報不足(DD)

2014

環境省

選定理由

本種は県内の玄界灘，周防灘，有明海沿岸域で局所的に確認されている。現状，明確な減少に関する情報はないが，本種の体表面，巣穴とその内壁面を利用する共生種の多くで減少が示唆されている。よって，宿主である本種も減少している可能性があるため，新規で情報不足とした。本種は潮間帯から潮下帯に生息するため，潮下帯の個体群は特に過小評価される可能性がある。体長10cm。

分布情報

北九州市，大牟田市，柳川市，みやま市，糸島市



撮影：小山彰彦